

助成受給団体名	ふくしま あいづ じどうふくし けんきゅうかい 福島会津児童福祉研究会
実施期間	平成 25年 11月 1日 ~ 平成 26年 1月 17日
実施した事業の内容(200字以上500字以内に収めてください。)	
<p>本事業では、子どもと家庭の福祉と心理に関する潜在的なニーズを掘り起こし、重篤な問題へと発展する以前に予防・支援を提供する計画を立てた。そのために、①HPを開設し広く活動を周知し、②実際の相談に対応できる面接室の基盤整備のための予算を申請した。</p> <p>実際に、①ホームページの作成 (http://aizu-cfsc.com/)、②広報パンフレットの作成、③面接室の整備のためのキャビネットやソファ、じゅうたん、テーブルの購入を行った。①②については、原発事故によって避難している方々や子どもの養育に関する困難を抱えた方に対する相談支援を行う機関としての広報活動のために活用することができた。③については、これまで面接室の備品が全くなかったため、ソファやじゅうたんなどを購入することができ、室内の環境を整えることができた。この整備によって、震災や養育者との分離などを体験したお子さんおよびご家族の方に対する週1回の継続的な面接を行うことができています。</p>	
今後の課題(200字以上400字以内に収めてください。)	
<p>貴財団からの助成により、相談を行うための面接室の基盤整備は予定通り実施することができた。今後の課題を福島会津児童福祉研究会の基盤整備という点に限定すると、次のような点が挙げられる。</p> <p>1) 広報活動: 今回の助成によりHPやパンフレットの作成を行うことができた。一方、HPの維持や更新、パンフレットの増刷など今後の活動継続のためには、広報費については毎年必要になってくる。</p> <p>2) 待合室の整備: 面接室の整備が十分にを行うことができたが、待合室についてはパイプ椅子とテーブルが置いてある状況である。そのため、待合室の整備をすることも課題の1つである。</p> <p>3) 人材の確保: 予算等の観点ではなく、ボランティア団体として人材の確保は最も重要な課題である。</p>	

